2016~2017 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

人類に奉仕するロータリー

RI 会長テーマ

会　長　藤原　太伸
副会長　前野　良夫
幹　事　浜田　浩誠

会長指針
チーム大船渡西で
ロータリーを楽しもう

・・・　例　会　記　録　・・・

２月第１週例会　２０１７年　２月　２日（木）

ソ　ン　グ　：　君が代　　ボックス　：３２，０００　円　　（報告者　志田成樹　会員）

本日出席率　：　５６．９０％　前回修正後６５．５２％（ﾒｰｷｬｯﾌﾟ２名）　（報告者　志田宏美　会員）

★　会長の時間　藤原太伸会長

仕事をする上で、リスクマネジメントを考えなければなりません。
リスクとは、何をするにもついて回るもので、これを恐れていたら仕事にはなりません。
　しかしながら、このリスクを無視して、ガンガン前に進んでいっても仕事に問題などが発生をしてしまい、マイナスとなってしまう事もあります。これらのバランスを取って仕事を進めるのが、リスクマネジメントではないでしょうか。
リスクマネジメントの重要な部分は、リスクの重さと発生の頻度を考える事にあります。リスクが発生しても、ほとんど損害のないものや、ほとんど影響のないものはリスクマネジメントでは無視しても良い部類のリスクとなります。
　また、発生の頻度が著しく低い物も無視をして良いと思います。１００年に一度あるかないか分からないリスクを一つずつ完璧に対策を取っていたら、それだけでやる事が一杯になってしまい、本来の業務が出来なくなってしまいます。発生の頻度が著しく低いものでも、生死に関わる事や会社の存続に関わる様なものはもちろん対策を取るべきだと思います。これらの事を意識して、仕事をしていけば、攻めも守りも強い組織・会社として成長していくのではないかと思います。リスクマネジメントは、会社だけが行うものではないと思います。社員一人一人が意識して、行なっていく事が、結果として会社全体でリスクマネジメントをしている事につながっていくと思います。
これから、町の復興の需要もある程度めどがついてきます。これ以降どの様なリスク、そして対策があるのかをイメージしながら、仕事をしていければと思います。　これからの会社の事についてちょっと考えてみたことを話させて頂きました。以上です。

◆◆◆　　幹事報告　　◆◆◆

1　大船渡東高校より　　卒業式の案内が届いています。
　　日　時　　3 月 1 日（水）9 時～受付　　場　所　　第一体育館　　出欠締切　　2 月 10 日

2　RI 日本事務局より　　2 月のロータリーレート　1ﾄﾞﾙ 116 円との連絡がありました。

◆◆◆　　本日のプログラム　　◆◆◆

フリーアワー　：　新沼達央会員卓話

先日、丸２日間の缶詰講習を受けてきました。受講料から計算すると、開催者側では非常に高収益セミナーでしたが、その講習の中での雑学や記憶に残った話をさせて頂きます。

1.　社風・環境・文化　　国によって時代によって文化は違う

①バス乗車

韓国・・　ボタンを押したら立ってすぐ降りられるように！

日本・・　危ないですから止まってから

②研修スタイル

普通は開始前に全員集合。広告代理店の常識では、成績優秀なメンバーは遅れて参加、営業活動が忙しい裏返しで容認されている。

③スポーツ

昔はうさぎ跳び・・今は厳禁。

練習中は水を飲むな！　今は十分に水分補給。

水を買うという時代が来るとは誰も予想していなかったが、

今はペットボトルの水が当たり前。更には価格破壊で、今は１本 30 数円で買える時代。

ダルビッシュが「体幹を鍛えても」とのつぶやきで物議。

将来は何が当たり前かわからない時代に。

④アメリカでの講師のスタイル

立っている時は手をポケット、座れば足を組み、時には受講生の机に座り質問。これは講師の自信のあらわれを強調するものであり、日本では異質。

2.　イノベーションとは・・　現在、イノベーションという単語が持てはやされています。

直訳は「創造的破壊」

P.F.ドラッカーは「新たな顧客ニーズを創造する活動であり、

技術革新のみを指すものではない」　価値の創造でもある。

事例①　大根の改良・・　大きい・重い形状を女性でも栽培・運搬できる現在の形に品種改良。

事例②　しゃもじの表面加工・・　多数の炊飯器メーカーで採用

現在は、木工加工してさらなるサービス業（ホテル・旅館）へ拡販

3.　戦略・・・・現在は物ではなく生活の一部分をターゲットにしたり、顧客を絞った戦略で成功

①石鹸で有名な会社・・・　清潔（クリーンビジネス）を売る企業に

洗剤・メリット・マジックリン・ハイター・リセッシュ

※　フロッピーも一時販売も撤退・・

別会社で化粧品や食用油も販売・・キレイという切り口

②欧州　ＳＡＳ（スカンジナビア）航空会社・・・　総花経営で業績悪化

ヤン・カールソン氏（レンタカー会社代表）をＣＥＯ「真実の瞬間」

役員会・・自社の営業戦略➠　飛行機を運行するという回答・・クビ

顧客を定義して他社と差別化

1.ビジネスパーソンをメイン顧客とする

2.最後に乗って、最初におりる・・　ビジネスの商談時間の確保

3.バックは室内に持ち込み・・荷物をまつ必要がないそのまま目的地

4.定時発進・定時発着

お客様に周知徹底して業績回復、世界一ビジネスマンを理解する会社

「ビジネスマンは飛行機の大きさで選択するのではない。会議の開催時間によって便を決める。」

5.　サービスの基準・予算に明確なルールはない。

その場の従業員が判断したサービスを実施。

明確な企業方針と顧客定義によって業績回復。

③　鉄道民営化　駅前開発

顧客の定義を大人か子供かしか考えていなかった。駅前開発の物販施設に持ち込んでも成功しない。

成功体験からの脱却。　社長交代で、プライス・ライフスタイルなど顧客視点にたった戦略で回復。

④　関東の銀行・・　お客様の不満➡「待たされること」。接客は二の次待たせない為にＡＴＭ含む無人店舗を倍増することで不満を解消。一気に契約者を増やす。

以上　貴重な時間、とりとめのない雑学的な話をお聞き頂きありがとうございました。

※　資料の防衛のサインは、人は焦ったり追い込まれると、自己防衛に走り、記載されている 27 項目全てに該当する行動をとる。自己認識はないが、部下や他人から見ると明らか。

システム・シンキングの重要性は、問題解決は、その問題だけを解決すると更なる問題が連鎖のごとくつながって行った事例。　暇つぶしにご覧ください。

防衛のサイン

１．ユーモアのセンスを失う

２．すぐに攻撃的になる

３．身体が緊張して、エネルギーがハイになる。

４．知能指数が突然低くなる（頭の中が真っ白になる）

５．自分が正しいと思いたい

６．会話の最後は自分が締めたい

７．自分の考えの根拠を証明するための情報を洪水のように流す

８．永遠に続く説明と合理化（言い訳）をする

９．「かわいそうな私」を演じる（誰も私のことを理解しないと感じる）

１０．何かと教えたがる

１１．延々と説教する

１２．何がなんでも頑固に自分の立場に固執する

１３．人の話を聞かない

１４．皮肉やあてこすりを言う（遠まわしに悪口を言う）

１５．他者をからかう

１６．「それが私さ」と言う

１７．非難する（相手のせいにする）

１８．突然の病気や怪我をする

１９．突然疲れる、眠くなる。

２０．狂ったように振る舞う（必要以上の振る舞いをする）

２１．カッコよくやりすぎる（優等生ぶる）

２２．特定のときだけ聞こえなくなる

２３．つまならいユーモアを言う

２４．ふさわしくない笑いや、クスクス笑いをする。
２５．突然黙り込む
２６．暑くもないのに汗をかく
２７．中毒になるーアルコール・ショッピング・仕事・ギャンブル・チョコレートなど

システム・シンキングの重要性

システム・シンキングとは、時間や空間を広く取り、複雑な問題をシステムとして捉える考え方である。要素還元的な因果関係の思考をしている限り、経験による対処療法や暫定的な改善と言った解決策しか導けない。システムとして物事を捉えてはじめて、本質的な問題解決につながるポイントが発見できる。

【オペレーション　キャット　ドロップ】

1960 年 3 月 13 日、英国空軍シンガポール駐留部隊所属の航空機がボルネオに向けて飛び立った。フライトの目的は、あるモノをボルネオ奥地の村にパラシュートで硬化させること。

＜背景＞

- 1950 年代後半　ボルネオ奥地に遭った原住民ダヤッ族の村でマラリアが蔓延
- WHO がマラリア病原中の媒介者となる蚊の駆除のため強力な殺虫剤（DDT）を散布
- その結果、村周辺の蚊は見事に一掃、マラリア問題は解決

ところが

- 民家の屋根がボロボロと落ち始めた
- DDT により民家の屋根に住んでいたスズメバチがみんな死ぬ
- 芋虫を食料源にしていたスズメバチが居なくなったため芋虫が大繁殖
- 芋虫が茅葺の屋根を食べた
- 植民地政府は仕方がないので　トタンの板を配って屋根を修復

更に

- 今度は村の人が不眠症（熱帯雨林のスコールで寝られなくなった）
- DDT により沢山の虫が死んだ
- 死んだ虫を食べたヤモリが大量死
- そのヤモリをネコが食べた
- 食料連鎖が上がっていくたびに、DDT が濃縮され（生物濃縮）高濃度の DDT を摂取したネコたちがどんどん死んだ
- ネコがいなくなってネズミが増え、作物が食い荒らされ、今度は別の伝染病が流行しそうになった

困った WHO は、なんと 1 万 4 千匹のネコにパラシュートをつけて空からまいた

ボルネオのちに空からネコが降った日から 50 年以上経過した今もなお「オペレーション　キャット　ドロップ」は世界中で学ぶべき教訓として、語り続けられています